

安足地域麦類技術情報 No. 5

令和6(2024)年4月11日
安足農業振興事務所

- 早めに赤かび病防除の準備を行いましょ
- 排水対策を行いましょ

1 気象経過と生育概況

3月は、平年に比べて気温は0.6℃高く、降水量は179%と多く推移しました(図1)。

11月中旬頃に播種したほ場では、高温の影響で生育が極端に前進し、茎立期は3月1日頃と平年と比べて6日早まりました。3月に入ってから気温の低下に伴って生育は緩慢となり、出穂期は4月7日頃と平年と比べて2日遅くなりました(表1)。

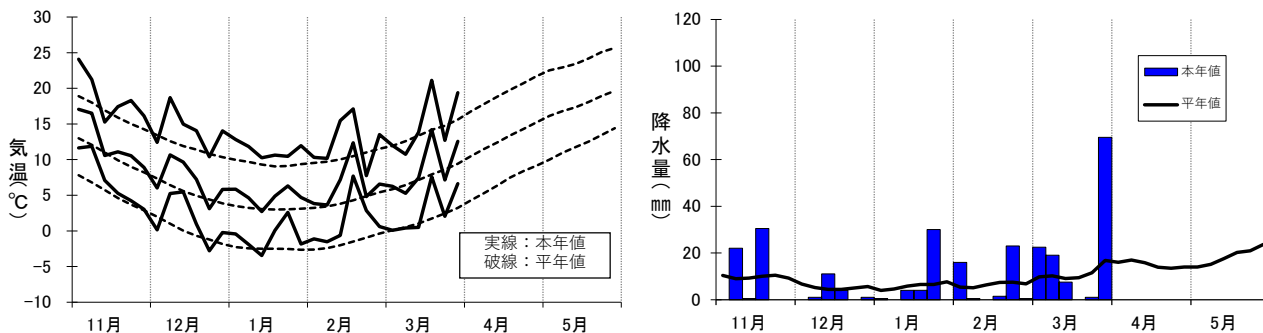


図1 気温と降水量の推移(佐野)

表1 令和6年産調査結果

品種名	年次	茎立期	出穂期
ニューサチホ ゴールデン	本年(令和6年)産	3月1日	4月7日
	前年(令和5年)産	3月8日	4月1日
	平年注)	3月7日	4月5日

注)平年は、令和元～令和5年産の5年間の平均値

2 今後の気象と注意点

気象庁の1か月予報(4月11日発表)によると、向こう1か月の気温は「高い」確率80%、降水量は「平年並」の確率40%という予報が出されています(表2)。

表2 関東甲信地方の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(4月11日気象庁発表)

気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)			
気温	関東甲信地方	向こう1か月 04/13~05/12	10 10 80
		1週目 04/13~04/19	10 10 80
		2週目 04/20~04/26	10 20 70
		3~4週目 04/27~05/10	10 30 60
降水量	関東甲信地方	向こう1か月 04/13~05/12	30 40 30
日照時間	関東甲信地方	向こう1か月 04/13~05/12	40 30 30

■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)

3 今後の栽培管理

(1) 適期に赤かび病防除をしましょう

防除に必要な薬剤の準備を早めに行い、適期に防除できるようにしましょう。1回目の散布後、多発する条件が続く場合は追加防除を行いましょう(表3、4)。

表3 麦種ごとの赤かび病防除適期

麦種	防除適期	多発の恐れがある場合 (不稔粒発生や 登熟期連続降雨など)
二条大麦 (ビール、食用)	穂揃期7~10日後	1回目散布の7~10日後に 2回目の散布
小麦	1回目: 開花始 2回目: 1回目散布の 20日後	3回目の散布

※穂揃期および開花始は出穂期5日後頃が目安

【多発する条件】

- ① 開花期から乳熟期にかけて雨が多く、気温が比較的高い(20~27℃)状態で経過する時
- ② 不稔粒の発生が多い時(出穂期前後に25℃以上の高温に遭遇すると不稔粒の発生リスクが高まる)

表 4 赤かび病防除の薬剤例

薬剤名	作物名	使用時期	使用回数
シルバキュアフロアブル	小麦	収穫 7 日前まで	2 回以内
	大麦	収穫 14 日前まで	2 回以内
トップジン M 水和剤	小麦	収穫 14 日前まで	3 回以内 (出穂期以降は 2 回以内)
	麦類 (小麦を除く)	収穫 30 日前まで	3 回以内 (出穂期以降は 1 回以内)
ストロビーフロアブル	小麦	収穫 14 日前まで	3 回以内
	麦類 (小麦を除く)	収穫 14 日前まで	3 回以内
ミラビスフロアブル	小麦	収穫 7 日前まで	2 回以内
	大麦	収穫 14 日前まで	2 回以内

注) 令和 6 (2024) 年 4 月 9 日時点で登録のある薬剤

農薬を使用する時は、ラベルの表示をよく確認し、基準を守って使用してください。

(2) 排水対策を行いましょ

麦は全栽培期間を通じて湿害を受けやすく、湿害を受けると減収につながります (表 5)。

表 5 湿害が麦の生育に及ぼす影響

生育期の湿害 ⇒ 茎数不足、一穂粒数不足	} ⇒ 減収
登熟期の湿害 ⇒ 粒の充実不足	

降水量は「多い」予報が出されています。最近では気候変動の影響で雨が一回に激しく降る傾向が強くなり、降雨日の一日降水量が多くなっており、毎年少なからず湿害を受けています。ほ場の明きよを確認し、不備があれば速やかに補修しましょう。

【排水対策チェックのポイント】

- 麦踏み等で明きよが埋もれていないか
- 排水口がほ場外の排水路としっかり連結しているか

問い合わせ先

安足農業振興事務所 経営普及部 農畜産課

TEL: 0283-23-1431

URL: <ps://www.pref.tochigi.lg.jp/g58/index.html>